

2026 年 9 月 30 日

ニュースリリース

ジェットスター・ジャパン株式会社

2026 年度決算について

- 2026 年 6 月期の営業収入は過去最高の 816 億 1,000 万円
- 当期の総搭乗者数は 589 万人超で年間利用者数として過去最高
- 台北・高雄発着路線を拡充し国際線路線網をさらに強化

ジェットスター・ジャパン株式会社(本社:千葉県成田市、代表取締役社長:田中正和)は、2026 年 6 月期決算(2025 年 7 月 1 日～2026 年 6 月 30 日)を取りまとめましたのでお知らせします。

2026 年 6 月期(当期)の営業収入は 816 億 1,000 万円(前年は 749 億 4,000 万円)となり、過去最高を更新しました。

一方、長引く円安や世界的なインフレの継続に加え、中東情勢の緊迫化に伴う燃油費の高騰、機材計画の変更に伴う費用増などの影響により、営業損失は 42 億 7,200 万円(前年は 15 億 7,800 万円の営業利益)、当期の純損失は 41 億 8,200 万円(前年は 15 億 4,300 万円の純損失)となりました。

また、当期の総搭乗者数(有償ベース)は 589.1 万人(前年は 561.0 万人)、年間平均搭乗率は 89.0%(前年は 87.8%)となり、共に過去最高を記録しました。定時運航率は 77.3%(前年は 76.8%)となりました。

当事業年度においては、旺盛なインバウンド需要を背景に、成田＝高雄路線の新規就航、関西＝マニラ路線および成田＝香港路線の運航再開を実施し、国際線を 4 路線から 7 路線へと強化しました。

また、今期においても、国際線のさらなる拡充を推進します。2026 年 12 月 6 日、当社として初めて那覇空港を発着する国際線、那覇＝高雄路線を新規に就航するほか、12 月 26 日から成田＝台北路線を 1 日最大 3 往復運航する予定です。2026 年冬ダイヤ期間中、台北・高雄発着路線は週最大 42 往復へと増加します。

ジェットスター・ジャパンは今後も路線網の拡充を図るとともに、お客さまの安全・安心を第一に、低運賃で気軽な楽しい空の旅を提供してまいります。

【ジェットスター・ジャパンについて】

「日本の空、世界の空を、もっと身近に。」をビジョンとして掲げ、2012年7月より日本国内線、2015年2月からは国際線の運航を開始しました。現在、国内15都市・海外5都市に就航し、国内線18路線・国際線7路線を運航中。就航から累計6,300万人以上のお客さまにご利用いただいています。ジェットスター・ジャパンには豪カンタスグループ、日本航空株式会社、東京センチュリー株式会社が出資しています。<https://www.jetstar.com/jp/ja/home>